

TECH CREW が「チームの仕組み」で向き合うと決めた理由

個人任せのAI活用が、 「社内AI格差」を広げていた

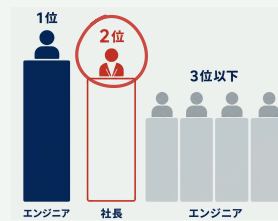
導入事例 #01



TECH CREW株式会社 代表取締役 CEO ドレ・グスタボさん。研修前のインタビューにて。

社内のAIツール利用量ランキング

「社長が社内で2位というのは、正直おかしい。
エンジニアは全員、私を超えていて
当たり前のはずなんです」



TECH CREW株式会社 代表取締役 CEO ドレ・グスタボ

研修前のインタビューより

店舗の多い企業向けに、人事労務のクラウドサービスを開発する TECH CREW株式会社。社内でAIツールを使った量を比べると、1位はエンジニアの一人。2位は、営業もマーケティングも担う代表のドレ・グスタボさんだった。エンジニア5人のうち、彼より上は1人だけだ。社員のあいだには「社内AI格差」が広がり、人事評価にまで表れていた。

なぜ差が開くのか。担当業務でAIに触れる量が違う。AIを信頼しきれず、従来のやり方を続けたい人もいる。「チームとしての理解が足りていない」と、マネージャーのデルポゾニックさんは話す。使い方のルールは無く、チームは「ここからルールを考えていく段階」に

いた。格差は、使い方を個人に任せてきた結果でもあった。

ドレ・グスタボさんが Furious Green に研修を頼んだのは、代表のフランシスコ氏と話して「私自身にも分からないことが多かった」と感じたからだ。研修では、LLMやループ、Skills の仕組みに加え、チケットや指示書に「完了の定義」を書き込むといった、チームでAIを回す考え方も扱った。

研修直後、2人が挙げたのはチームでの取り組みだ。まずはナレッジを整理して共有できる環境をつくり、その一環として Skills の共有から始める。AIの使い方を個人の努力に任せず、チーム全体で考える。社内AI格差に、チームの仕組みで向き合うと決めた。

COMPANY PROFILE



TECH CREW株式会社

多店舗・シフト型ビジネスのためのクラウド型人事労務サービス
「人事CREW」を開発・提供。入社手続き、労務管理、年末調整、給与明細までをオンラインでつなぐ。延べ800社・50万人以上が利用。

設立	2016年4月
本社	東京都港区
開発	マネージャー1名+4名
研修	2026年10月16日

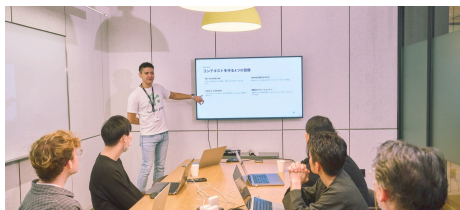
研修前

- 使い方は個人任せで、チームのルールが無い
- メンバーごとに、使い方も習熟度もばらばら
- トークンを使っても、成果が見えない



研修直後

- LLM・ループ・Skills の仕組みを、体系立てて理解
- ナレッジ共有の一環として、Skills を共有する
- AIの使い方を、チーム全体で考える



講義。スライドは「コンテキストを守る4つの習慣」。



ハンズオン。講師が林さんのPCのをぞき込み、一緒に確かめる。



スライド「プロジェクトループ: チケットが完了の定義を運ぶ」。

格差を埋めるのは、個人の努力ではなくチームの仕組み

社内AI格差が広がる4つの理由 根っこは、どれも「個人任せ」

- 1 触れる量の差**
新規開発は毎日使い、保守中心はあまり使わない
- 2 信頼と慣れの差**
AIを信頼できず、従来のやり方を続けたい人も
- 3 理解の差**
中の仕組みを知らず、試行錯誤に頼る
- 4 共有の不在**
使い方のルールがなく、知見が個人にとどまる

個人任せのままだでは、差は開いていく

個人の工夫から、チームの仕組みへ



取材で聞いたこと

Q. 研修前、チームの課題は何でしたか

使い方のルールがまだ無く、メンバーごとにばらばらでした。どう使えばいいのかを考えている最中で、ここからルールを考えていく段階でした。
(デルポゾ ニックさん)

Q. なぜ Furious Green に頼んだのですか

フランススコと話したとき、私自身にも分からないことが多かった。一般的なAIセミナーよりも深い、最先端のところまで連れて行ってくれと感じました。(ドレ・グスタボさん)

※Furious Green の研修は、代表のフランススコ氏が監修する。NAIST で修士号を取得後、Google や CyberAgent でエンジニアリングを率いてきた。

Q. 研修で、何がいちばん大きかったですか

LLMの動き方や、ループ、Skills。これまで感覚的に使っていた仕組みを、体系立てて説明してもらえた。仕組みがはっきり見えるようになりました。
(デルポゾ ニックさん)

Q. 社内に持ち帰って、まず何に取り組みますか

まずは、チームのナレッジを整理して、共有できる環境をつくります。その一環として、Skills の共有から始めます。認識をそろえ、AIの使い方を、個人の努力に任せるのではなくチーム全体で考えていく形にしたい。
(デルポゾ ニックさん)

Q. この研修を、どんな人に勧めたいですか

自分のAIの使い方が正しいのか、価値を出せているのか、迷っているエンジニアにこそ受けてほしい研修です。(デルポゾ ニックさん)

「エンジニア同士がAIについて本格的に話す機会は、意外と少ないものです。こうした研修は、その対話のきっかけになり、チームづくりにも役立つと思います」

TECH CREW株式会社 エンジニア 林さん（研修直後）

AI研修 / Furious Green合同会社

生成AIを組織に定着させる。PoC止まりで終わらせないための実践的AIトレーニングと技術支援。単なる知識提供ではなく「実務で使いこなす力」をゴールに設定。監修：代表 グラローザソアレス・フランススコ。 furiousgreen.co

furious green

研修の内容・ご相談は
furiousgreen.co/contact